



# アポビッテ *ApoBitte!* コミュニティファーマシーの創造を支援する情報誌

創刊

Vol. **0**

2014 Spring & Summer

ドイツに学ぶべき薬局のかたち

地域社会の拠点となり、人々にとっての  
拠り所となる「いきつけ薬局」



### アポビット

ドイツ語の Apotake (薬局) とおもてなしの言葉 Bitte (どうぞ) を組み合わせたコミュニティファーマシーを表す造語です。

04 ドイツの薬局の窓から

06 日本コミュニティファーマシー協会の設立に当たって

08 インタビュー●吉岡ゆうこ理事長に聞く  
日本コミュニティファーマシー協会  
設立の経緯

10 教えて! JACP

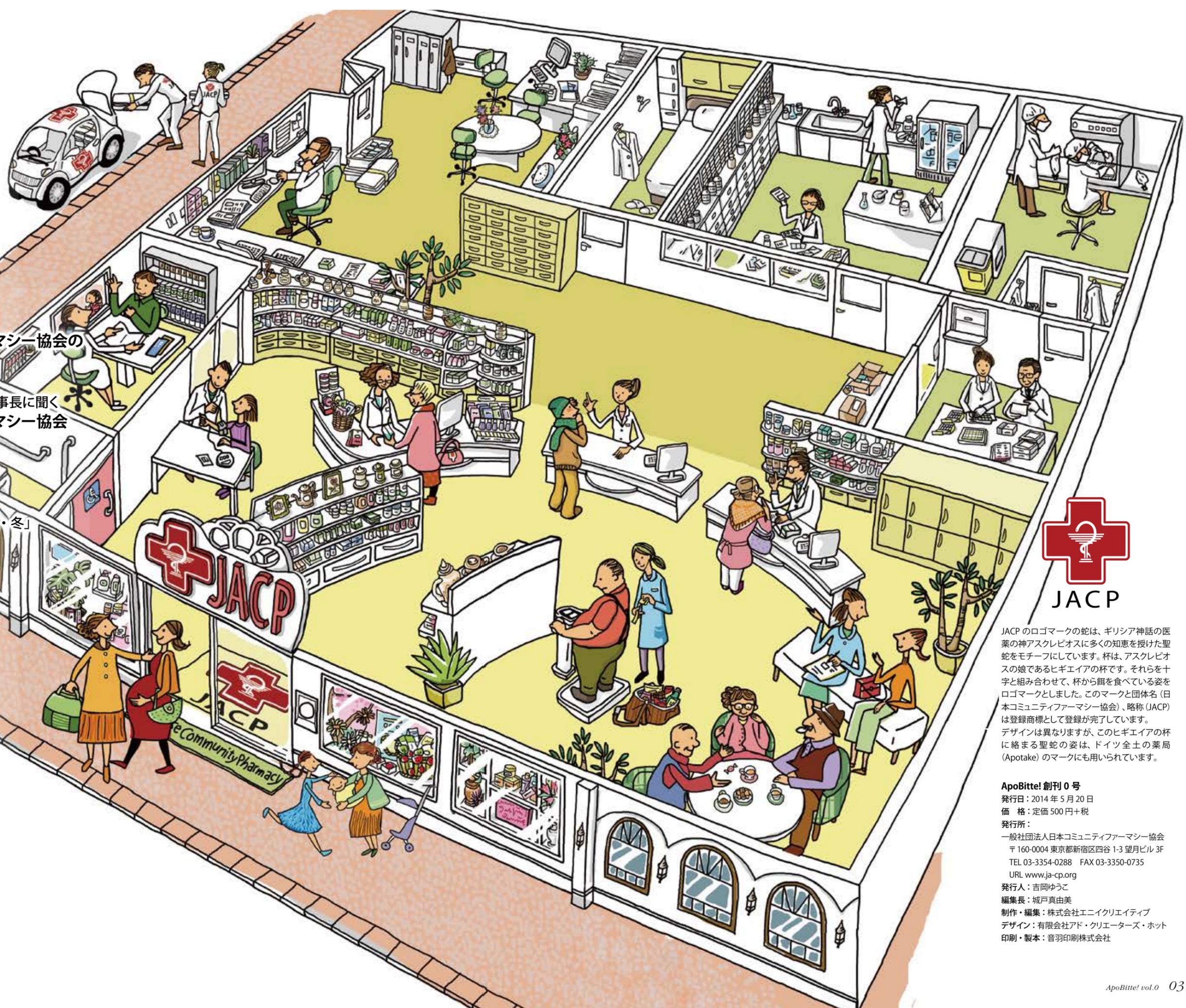
11 「ドイツ薬学視察旅行 2013・冬」  
REPORT

14 INFORMATION



### 今号の表紙

この写真は、ハイデルベルクにあるドイツ薬事博物館の玄関ホールです。博物館を訪れた人々をまず出迎えてくれるのは、双子の守護聖人コスマスとダミアンの像です。右に立つのが医師コスマス。手には診断するために採取した尿を入れる袋を持っています。左が薬剤師ダミアン。薬を調合するための乳鉢と乳棒を持っています。正面は薬棚です。美しい絵が描かれた緑色の扉を開けると、ガラスの壺に入ったたくさんの摩訶不思議な薬が並んでいます。ドイツを訪れる機会がありましたら、ぜひ訪ねてください。



JACP

JACPのロゴマークの蛇は、ギリシア神話の医薬の神アスクレピオスに多くの知恵を授けた聖蛇をモチーフにしています。杯は、アスクレピオスの娘であるヒギエアの杯です。それらを十字と組み合わせて、杯から餌を食べている姿をロゴマークとしました。このマークと団体名(日本コミュニティファーマシー協会)、略称(JACP)は登録商標として登録が完了しています。デザインは異なりますが、このヒギエアの杯に絡まる聖蛇の姿は、ドイツ全土の薬局(Apotake)のマークにも用いられています。

### ApoBitte! 創刊0号

発行日: 2014年5月20日

価格: 定価 500円+税

発行所:

一般社団法人日本コミュニティファーマシー協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-3 望月ビル3F

TEL 03-3354-0288 FAX 03-3350-0735

URL [www.ja-cp.org](http://www.ja-cp.org)

発行人: 吉岡ゆうこ

編集長: 城戸真由美

制作・編集: 株式会社エニクリエイティブ

デザイン: 有限会社アド・クリエーターズ・ホット

印刷・製本: 音羽印刷株式会社

**街** 角を歩く老女の背中が、これまでの長い人生の中で背負ってきた悲喜交々を物語る。それでもこうして少し先に歩いていけば、露店に集まる人たちのいつもの笑顔に会え、ひとときの語りができる。

いま、私たちにはこうしたさりげない日々の“暮らし甲斐”が実感できる街づくりが必要なのだが、教会の祈りの一歩手前の心地よい安心と安全の拠り所として、町の薬局が本来の機能を十分に発揮すれば、その中心になる可能性は小さくない。



 Japanese Association for Community Pharmacy

# 日本コミュニティファーマシー協会の 設立に当たって

## 薬局は地域社会創造の 拠点になるべき

今年1月、厚生労働省医薬食品局総務課は、2013年度の厚生労働科学研究費補助金事業「薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究」(日本医療薬学会=会頭:安原真人 東京医科歯科大学医学部附属病院教授・薬剤部長)がまとめた報告書「薬局の求められる機能とあるべき姿」の公表について、都道府県保健所設置市特別区薬務主管部(局)長と公益社団法人日本薬剤師会会長宛に通知しました。

この報告書で取りまとめられた内容は、薬局が備えるべき基本的体制および薬学的管理の在り方について、確保すべき、または取り組むべき項目を示しています。ここに掲げら

### 別表

- 1 最適な薬物療法を提供する医療の担い手としての役割が期待されている
- 2 医療の質の確保・向上や医療安全の確保の視点から、医療機関などと連携してチーム医療を積極的に取り組むことが求められる
- 3 在宅医療において、地域における医薬品等の供給体制や適切な服薬支援を行う体制の確保・充実に取り組むべきである
- 4 医薬品や医療・衛生材料等の提供拠点としての役割に留まらず、後発医薬品の使用促進や残薬解消といった医療の効率化について、より積極的な関与も求められる
- 5 セルフメディケーションの推進のために、地域に密着した健康情報の拠点として積極的な役割を發揮すべきである
- 6 患者の治療歴のみならず、生活習慣も踏まえた全般的な薬学的管理に責任を持つべきである

れた内容は、薬局・薬剤師に求められる機能に関する基本的な考え方として、別表のような6項目に集約し、周知を促しています。

しかし、考えてみれば、このようなことは薬局が取り組んでいなければならない「基本中の基本」なのであって、客観的に見れば、「何を今さら指摘されなければならないのか」というのが率直な印象です。これを改めて見た世間の多くの人はどう受け止めるのでしょうか? ここでいう世間とは、いわゆる薬局業界を指すのではなく、国民総体を指します。一般の人にこれを話したら、おそらく「???」となるでしょう。「なぜ今更ながら……、薬局というのは本来、ここに掲げられたようなことを実施

して当たり前ののではないの」と言われそうです。

要するにこれまで薬局の多くがその立場を顧みず、あるいは時代の趨勢を予測せず、地域社会における医療提供施設としての役割と機能を發揮することなく、漫然と処方箋調剤偏重の薬局運営に甘んじてきた結果、薬局は「ひ弱な業種・業態」になってしまったというのが、薬局を取り巻く周辺の大方の見方です。

ところがここに来て、わが国が世界の先進諸国に例を見ない急激な少子高齢社会に突入してきたことによって、社会保障制度の疲弊、医療費の増大などが国の財政を圧迫するに及んで、ついには、地域において薬局・

薬剤師の機能・職能の活用が効果的と気づき、厚生労働省が都道府県および日本薬剤師会に対し、「厚生労働省では、かかりつけ薬局機能の強化のための取組の一環として、平成26年度政府予算案に、すべての都道府県を対象として、〈薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点推進事業〉に係る予算を計上していることを申し添えます」とあえて付記して通知したのです。「国は薬局・薬剤師が求められる機能とあるべき姿を実現していただくために予算を計上しましたよ。薬局・薬剤師は、これにしっかりと応えてくださいよ」というわけです。

ここに厚生労働省、ひいては国が今日の社会・医療を背景として薬局・薬剤師の機能と職能に対する期待を表明したとも受け止められますが、一方、膨らむ社会保障費や医療費の増大などの歯止めに対する「藁にもすがる」国家の焦燥の表れであるとも言えます。

これに対し薬局・薬剤師は、今こそ「知識」「技術」「態度」に加えて、「責務」と「覚悟」を持って、薬局の本来果たすべき役割と機能を再構築し、健康情報拠点からさらに一歩踏み込んだ、生活圏における地域の人々が心身ともに健康で「暮らし甲斐」ある地域社会創造の拠点になることが必要でしょう。

記通知項目の薬局・薬剤師の機能・職能におけるいわば“1階部分”に加えた新しい薬局・薬剤師像を描き提案することで、健全な薬局経営の糸口となるアクションプランとして、新しい具体的支援策を提供していこうと考えています。

これに紐づく活動・支援策は、コミュニティファーマシーとして地域包括ケアにおける他職種との連携に関する立ち位置の明確化を図っていくための特徴ある役割と機能整備、構築のための支援活動をはじめ、店舗づくり・販売促進・情報発信などの支援活動およびコンサルティング、また保健・医療・公衆衛生等の薬剤師および薬局に関わる各種調査・分析・データベースの構築によって現状の問題点を把握し改善への筋道を作る、さらには地域における医療・保健・福祉分野との具体的な関わりの中で実力を發揮できる薬局作りを支援するなどです。

こうした活動を通じたJACPの目指すところは、掲げた理念と理想の旗の下で、磨きをかけた「知識」「技術」「態度」に加えた「責務」と「覚悟」を持った“実行部隊”を作り上げることです。そしてそのメンバーたる薬局

が、人々の生活圏における安心と安全に裏打ちされたそれぞれの地域社会のフロントに立つ。こうしたコミュニティファーマシーが全国各地にどんどん出現すれば、わが国が抱えた社会保障や医療の問題解決の一助として機能することになるのではないのでしょうか。

そしてJACPの重要な目的は、もう一つ。これまで世界中で薬局・薬剤師は、人間の健康を守る、病気を治すというニーズに応える重要な役割を持つとともに責任を担う機能・職能として認められてきました。実はJACPでは、一方で薬局・薬剤師の歴史を紐解きながら、現在、未来を考えるということで、このことを再認識し、正しく次世代に継承していくことが重要だと考えています。

人々が健康的な生涯を全うしたいという普遍的な望みに応え、これから迎える日本の超少子高齢社会という“国難”を乗り越えるためにも、地域住民の健康を支え、QOL(生活の質)の向上に努める医療・保健・福祉関係者、さらには行政の人、地域住民たちとも手を携えて、力と誇りを持って業務に邁進できる薬局・薬剤師づくりがJACPの目指すところなのです。

## 普遍的役割を次世代に 継承する

一般社団法人日本コミュニティファーマシー協会(Japanese Association for Community Pharmacy = JACP)は、この通知に先駆けて昨年11月に発足しましたが、地域住民にとつての拠り所となる「いきつけ薬局」としてのコミュニティファーマシーの創造を目的にしているという点で、まさに厚生労働省の通知の命題に応え得るための薬局づくりの方向に合致しています。

JACPはそのために、厚生労働省からの上



# 日本コミュニティファーマシー協会 設立の経緯



## — 協会設立の経緯をお聞かせください

私は2000年に、21世紀の薬剤師、つまり次世代薬剤師の教育研修を行うネオフィスト研究所を設立しました。教育研修の一貫として、2001年から「次世代薬剤師を育てる会」という任意団体を立ち上げ、医師や薬剤師を講師とした講演会を2012年までの12年間で27回開催してきました。その最後の27回目は、「地域とともに歩む薬局」と題して、南ドイツで開局している日本人経営者アッセンハイマー・慶子氏と笠間市で開局している篠原久仁子氏を招いての講演会でした。この研究会は、翌年の2013年には研修の対象を薬局薬剤師に特化し、「日独融合型薬局推進フォーラム」と名称を変更しました。その経緯の中で、日本におけるコミュニティファーマシーをもっと真剣に考えていこうと、アッセンハイマー・慶子氏、篠原久仁子氏、そして思いを同じく持つ現在の役員とともに2013年11月、一般社団法人日本コミュニティファーマシー協会を設立しました。

また、ネオフィスト研究所ではドイツ薬学視察旅行を企画し、2005年からドイツの薬局、病院薬局、高齢者施設を巡る視察旅行を現在までに8回行っています。アッセンハイマー・慶子氏の薬局には第1回目から受け入れ先としてお世話になっています。篠原久仁子氏も2回ドイツ薬学視察旅行に参加し、それをきっかけに日独融合型薬局作りに邁進されています。この10年間で培ったドイツでの人脈は貴重な財産になっ



ています。これを今後は協会に引き継いでいってまいります。

## — なぜ、ドイツだったのでしょうか

私が大学を卒業した1980年代は、アメリカの薬剤師がDI業務やクリニカルファーマシストとして病棟で活躍している時代で、私もクリニカルファーマシストになりたいという思いから、九州大学附属病院の研修生になりました。その後、アメリカで研修を受けた薬剤師がクリニカルファーマシストとして活躍していると聞き、日本医科大学多摩永山病院に勤務しました。そこで病棟業務等の実践をしました。その時の経験で『カルテの読み方と基礎知識』（じほう刊）を執筆することができました。

病院を退職後、薬局薬剤師の教育に携わったのですが、病院の薬剤師についてはアメリカに手本がありました。薬局の薬剤師においてはロールモデルがありませんでした。薬局薬剤師の手本はアメリカではなくヨーロッパに求められるのではないかと思います。ヨーロッパに視察に行きました。イギリス、フランス、イタリア、ドイツと視察しましたが、一番しっくりしたのがドイツの薬局でした。

なぜならば、ドイツは医薬分業の発祥の地であり、1240年に神聖ローマ皇帝フリードリッヒII世により医師と薬剤師の役割がそれぞれに責任を持って分担されて以来、長い歴史の中で医薬分業の精神が培われてきています。ドイツの薬剤師は医師との責任分担を明確にし、地域に根ざし、生活



**Profile ● よしおか・ゆうこ**  
 1981年 長崎大学薬学部卒業  
 1982年 九州大学附属病院研修終了後、保険薬局勤務  
 1988年 日本医科大学多摩永山病院勤務  
 1991年 伊藤医薬経営研究所勤務  
 1993年 アポラスステーション株式会社勤務  
 1998年 ヨシオカプランニングルーム開設  
 2000年 ネオフィスト研究所開設  
 2013年 一般社団法人日本コミュニティファーマシー協会理事長就任

者目線で仕事をしていました。

## — 日独融合型薬局とはどのようなものでしょう？

本誌、2、3ページの薬局のイラストが当協会の思い描く日独融合型薬局のあり様に近いのですが、それはおいしい、このアポビットで展開していこうと思っています。2014年1月「薬局の求められる機能とあるべき姿」が公表されましたが、記載されている内容は特に難しいことではなく、あたり前のことと思っています。日本でも実践している薬局が多くあるのではないのでしょうか。日独融合型薬局は、「薬局の求められる機能とあるべき姿」にさらにドイツの薬局の機能やドイツの薬剤師のマインドを融合したものです。ドイツでは薬剤師国家試験とは薬局開局免許を得ることを意味し、薬剤師しか開局できません。そして、1薬剤師1薬局の開局のみです。現在は少し規制緩和され支店を3軒まで持つことができますが、3軒持つ薬剤師は多くありません。薬剤師が1薬局開局して、地域で生きていくということは並大抵の努力ではないと思います。地域の生活者から信頼されなければ、薬局はすぐに潰れましょう。ドイツの薬剤師の持つマインドとは、日本で言う居酒屋のマスターやママ、旅館の女将のような心意気です。当協会では「かかりつけ薬局」という言葉ではなく「いきつけ薬局」という言葉を使っています。これから日本でもネット調剤の話が遡上にあがってくるでしょう。ネットには居酒屋や旅館はありません。薬局にマスターやママ、旅館の女将にあたる薬剤師がいれば自ずと生活者は薬局に足を運ぶでしょう。そのような日独融合型薬局を創造していきたいと思っています。

## ■ 研修会、フォーラム、視察旅行の実績

- |              |      |   |
|--------------|------|---|
| <b>2001年</b> | 第1回  | 薬剤師の資質と業務を考える 澤田康文先生(九州大学教授)  |
|              | 第2回  | 薬学教育の可能性を探る 林一先生(昭和薬科大学名誉教授)  |
|              | 第3回  | 薬学教育の可能性を探る 望月真弓先生(北里大学薬学部教授/臨床薬学研究センター 医薬情報部門)   |
| <b>2002年</b> | 第4回  | 健康日本21"に果たすべき薬局や薬剤師の役割について考える 堀美智子先生(医療情報研究所/(株)エス・アイ・シー 医薬情報部門責任者)                         |
|              | 第5回  | 薬剤師のための添付文書の読み方の鉄則を学ぶ 菅野疆先生(どんぐり工房代表)   |
| <b>2003年</b> | 第6回  | 医療のIT時代による地域向上について学ぶ 平井愛山先生(千葉県立東金病院院長)   |
|              | 第7回  | IT化と医薬品情報のこれからを考える 折井孝男先生(NTT 東日本関東病院 薬剤部長/東京大学医学部客員研究員)                                    |
|              | 第8回  | 患者の訴えから考える薬の副作用 大津史子先生(名城大学薬学部/医薬情報センター)  |
| <b>2004年</b> | 第9回  | エビデンスを医薬品適正使用に役立てる 後藤伸之先生(福井大学医学部附属病院 薬剤師)  |
|              | 第10回 | 次世代薬剤師に必要な遺伝薬理学 家入一郎先生(鳥取大学医学部附属病院薬剤師)  |
|              | 第11回 | 薬剤師の職能とリスクマネジメント 網岡克雄先生(金城学院大学消費生活科学研究所)  |
| <b>2005年</b> | 第12回 | ドイツ薬学視察旅行報告 吉岡ゆうこ先生(ネオフィスト研究所・所長)   |
|              | 第13回 | 東京・渋谷 臨床における薬学的評価の重要性 山田安彦先生(東京薬科大学薬学部臨床薬効解析学教授)  |
|              | 第14回 | 薬学領域における実践経営学 赤瀬朋英先生(日本医療伝導学会衣笠病院薬剤部長)  |
|              | 第1回  | 2005年1月30日～2月6日 ハイデルベルク、ホーエンシュパンガウ、ロッテンブルク、アウクスブルク、ミュンヘン、ドイツ薬事博物館、薬局、大学薬学部、修道院、薬草園          |
|              | 第2回  | 2005年7月25日～8月1日 ハイデルベルク、ロッテンブルク、アウクスブルク、ミュンヘン、パリ、ドイツ薬事博物館、薬局、大学病院薬局、大学薬学部、修道院、薬草園           |
| <b>2006年</b> | 第15回 | 米国での薬剤師及び薬学教育と今後の日本における展望 陳惠一先生(昭和大学薬学部 臨床薬学教室助手)   |
|              | 第16回 | 06 医療制度改革と薬剤師 漆畑稔先生(前・日本薬剤師会副会長)  |
| <b>2007年</b> | 第17回 | ①眼の世界へようこそ～眼の病気と治療～ 河嶋洋一先生(参天製薬株式会社 医薬事業部技術情報室室長)   |
|              |      | ②緑内障における薬物治療 藤本尚也先生(井上記念病院 眼科部長)  |
|              | 第18回 | 心不全の家庭療法 塚田弥生先生(日本医科大学付属病院内科 助教)  |
|              | 第3回  | 2007年6月10日～14日 ハイデルベルク、ロッテンブルク、ヴェルツブルク、ローテンブルク、チュービンゲン、ドイツ薬事博物館、薬局、修道院、薬草園                  |
| <b>2008年</b> | 第19回 | 軟膏正しく塗れますか？ 大谷道輝先生(東京通信病院薬剤師)   |
|              | 第20回 | 予後改善を目指す循環器薬物療法の現況 雪吹周生先生(日本医科大学千葉北総病院循環器内科講師)  |
|              | 第4回  | 2008年10月6日～11日 ハイデルベルク、ロッテンブルク、チュービンゲン、ローテンブルク、マインツ、グーテンベルク博物館、ドイツ薬事博物館、薬局、Merck社、ペーハウゼン修道院 |
| <b>2009年</b> | 第21回 | ①ジェネリック医薬品の位置づけとエルメドエーザイ 中西憲幸先生(エーザイ株式会社 保険調剤営業部長)  |
|              |      | ②イギリスの薬剤師の役割と医薬品情報提供のしくみ 上田彩(旧姓・水上)先生(マリアンナ医科大学病院薬剤師)                                       |
|              | 第22回 | CKDとその治療 葉山修陽先生(日本医科大学千葉北総病院腎臓内科准教授)  |
| <b>2010年</b> | 第23回 | 緩和医療において薬剤師が担いたいこと、担わなければならないこと 加賀谷肇先生(済生会横浜市南部病院 薬剤部長)                                     |
|              | 第24回 | 薬剤師の職能拡大とアメリカにおける CDTM 岩月進先生(前日本薬剤師会常務理事・ヨシケン岩月薬局)  |
| <b>2011年</b> | 第25回 | 当院における抗菌薬使用状況と臨床分離株の検討 長島誠先生(東邦大学医療センター 佐倉病院外科准教授)  |
|              | 第26回 | 薬剤師とバイタルサイン～薬・薬連携の質的向上に向けて 狭間研至先生(ファルメディコ㈱代表取締役/一般社団法人在宅療養支援薬局研究会 理事長)                      |
|              | 第5回  | 2011年6月6日～11日 ハイデルベルク、ロッテンブルク、チュービンゲン、マンハイム、ドイツ薬事博物館、薬局、病院、高齢者施設、薬草園                        |
| <b>2012年</b> | 第27回 | 地域とともに歩む薬局～ドイツと日本における実践～ アッセンハイマー・慶子先生(ドイツ・セントラル薬局)   |
|              |      | 篠原久仁子先生(フロラ薬局)  |
|              | 第6回  | 2012年6月10日～16日 ハイデルベルク、ロッテンブルク、アウクスブルク、フュッセン、ミュンヘン、ドイツ薬事博物館、薬局、病院、高齢者施設、Merck社、Weleda社、修道院  |
| <b>2013年</b> | 第1回  | 地域とともに歩む薬局 2013～ドイツと日本における実践 in 大阪～ 野中潤一先生(ヴェレダ・インターナショナル教育・研究顧問)                           |
|              |      | アッセンハイマー・慶子先生(ドイツ・セントラル薬局)  |
|              |      | 篠原久仁子先生(フロラ薬局)  |
|              | 第7回  | 2013年6月10日～15日 ハイデルベルク、ロッテンブルク、チュービンゲン、グミュント、カールスルーエ、ドイツ薬事博物館、薬局、大学薬学部、病院、高齢者施設、Weleda社、修道院 |
|              | 第8回  | 2013年12月2日～7日、ハイデルベルク、ロッテンブルク、シュツットガルト、ニュルンベルク、ドイツ薬事博物館、薬局、大学薬学部、病院、高齢者施設、独クリスマスマーケット       |

●=研修会「次世代薬剤師を育てる会」 ●=フォーラム「日独融合型薬局推進フォーラム」  
 ●=視察旅行「ドイツ薬学視察ツアー」 (※講師の所属・役職は研修会開催時のもの)

# 教えて! JACP

協会に寄せられた質問にお答えします

## Q1 入会するとどんな特典がありますか?

協会が主催するセミナーやフォーラム、海外視察ツアーへの参加費、推奨品やサービスの割引などの特典があります。そして、この会報誌(ApoBittel)がお手元に届きます。何よりも同じ志や目標を持った多くの仲間と出会えます。

## Q2 どのようなセミナーを予定していますか?

コミュニティファーマシストとして働くために必要な薬局管理やセルフメディケーション支援などの知識や技術を養うためのセミナーやフォーラムを予定しています。ホームページ(<http://www.ja-cp.org/>)に掲載のご案内をアップしていますのでご確認ください。会員登録いただいた方にはメールマガジンにて最新のご案内をお知らせいたします。

## Q3 海外視察ツアーはどのような内容ですか?

視察先はドイツが主ですが、年に2回、6月と12月に実施しています。薬局や病院、高齢者施設、薬事博物館などを視察します。6月は薬草園、12月はクリスマスマーケットなど季節に合わせた視察先も組んでいます。

## Q4 首都圏で開催されるセミナーに参加できない地域の薬局でも入会のメリットはありますか?

セミナーやフォーラムの開催地域はまだ首都圏中心ですが、メールマガジンや会報誌(ApoBittel)を通じて、海外情報、医療情報、セミナー情報など、たくさんの有益な情報をご提供してまいりますのでぜひご入会ください。

## Q5 協会の推奨品にはどのようなものがありますか?

ドイツの薬局で販売されているルーベや機器、店舗ディスプレイに役立つ薬壺や乳鉢のレプリカなどもドイツから輸入し、ご提供いたします。

## Q6 入会およびセミナーやフォーラムへの申込方法を教えてください。

日本コミュニティファーマシー協会のホームページ(<http://www.ja-cp.org/>)からお申し込みいただけます。どうぞご確認ください。

## JACP 入会特典

1. 本協会が主催する各種学術大会における発表資格
2. 本協会の催す研修会、講演会参加費の優遇
3. 本協会が販売・推奨する製品やサービス等の割引
4. 会員の薬局開業支援
5. 本協会が提供する業界関連情報の取得
6. その他、理事会で決定された特典

## JACP 入会金および年会費

	入会金	年会費
正会員	5,000円	5,000円
学生会員	0円	1,000円
賛助会員	0円	1口50,000円 (2口以上)
特別会員	0円	0円

※入会申し込みは、ホームページよりお願い申し上げます。



<http://www.ja-cp.org/>

一般社団法人  
日本コミュニティファーマシー協会  
〒160-0004 東京都新宿区四谷1-3 望月ビル3F  
電話 03-3354-0288 / FAX 03-3350-0735

お客様第一主義



Customer First

トップツアー株式会社は  
それぞれのお客様に最もマッチした  
「海外視察旅行」「国内視察旅行」を  
提案・創出してまいります。

トピット 出逢い、発見、そして感動。  
トピット株式会社 東京法人東事業部  
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-10-5 住友生命茅場町ビル2F  
TEL:03-6667-0591 FAX:03-6667-0565 担当: 櫻井・鈴木  
<http://www.toptour.co.jp>

# 「ドイツ薬学視察旅行 2013・冬」 REPORT

2013年12月2日(月)～7日(土)の6日間、南ドイツの主要都市をめぐるドイツ薬学視察旅行を実施しました。医薬分業発祥の地ドイツでヨーロッパの歴史と人々の暮らしを知り、薬剤師の使命感と倫理観を磨き上げることを目的としています。

多くの地域に根ざした薬局と薬剤師の姿、病院薬局、大学薬学部、高齢者福祉施設などを訪ねました。また、3都市のクリスマスマーケットを視察し、この時期の薬局のディスプレイやイベントなどの取り組みも学びました。



## 旅行日程と視察先

12/2(月) フランクフルト空港へ着後、ハイデルベルクへ  
ハイデルベルクの夜間薬局(希望者)



12/3(火) ホテルにてセミナー(講師:吉岡ゆうこ)  
ハイデルベルクの薬局  
ハイデルベルク城  
ドイツ薬事博物館  
ハイデルベルクのクリスマスマーケット



12/4(水) ハイデルベルクの薬局  
ハイデルベルク大学病院薬局  
ハイデルベルク大学薬学部  
大学構内にてセミナー(講師:ハイデルベルク大学薬学部教授)  
高齢者施設  
シュトゥットガルトへ移動  
シュトゥットガルトのクリスマスマーケット



12/5(木) ロッテンブルクへ移動  
ロッテンブルクの日本人経営薬局  
ホテルにてセミナー(講師:ペーリンガー社)  
ニュルンベルクへ移動  
ニュルンベルクのクリスマスマーケット

12/6(金) ホテルにてセミナー(講師:吉岡ゆうこ)  
ニュルンベルクの薬局  
ニュルンベルクのクリスマスマーケット  
フランクフルトへ移動



12/7(土) 帰国

わたしの  
1枚

参加者の皆さんから旅行中に撮影した写真の中で一番印象に残った「わたしの1枚」をお送りいただきました。ドイツの街、そして薬局の雰囲気を読者の皆さんに伝わりますように。



## ●●● 「ドイツ薬学視察旅行 2013・冬」に参加して ●●●

視察旅行に参加したメンバーに感想を寄せてもらいましたので、ぜひ参考にしてください。同じ旅をしても、何を感じ、何を見つけるかは、一人ひとり違います。今年はあなたも「あなたの理想の薬局」を見つけに行きませんか？

### 1. ドイツの薬局をみて感じたこと

- ディスプレイの仕方が魅力的で親しみやすい雰囲気でした。
- 困った人を助けたいと思う気持ちは、国が違っても同じであることを実感しました。
- 夏の視察旅行にも参加しましたが、冬のショーウィンドウも素敵でした。
- 薬や品物だけでなく「プラスアルファ」をお渡しする、相手が喜ぶことを考える等、リピーターになつてもらおう努力を聞いて初心を思い出しました。
- 処方箋医薬品だけでなく、OTC 医薬品やハーブティーなどの品揃えも豊富で疾病治療だけでなく、健康に関する疑問や悩みも相談しやすい雰囲気を作っていました。
- 薬剤師が街の科学者として地域に根付いていました。
- いわゆるチェーン薬局がなく、薬剤師が経営者として存在していました。



- 薬剤師だけでなく、大学の教授や医師など他の医療関係者も誇りを持って働いていました。日本の薬局は病気の苦しみを緩和するだけですが、ドイツの薬局はイベント（クリスマスなど）やディスプレイを通じて幸せを感じる薬局作りをしています。
- 実に親切丁寧でした。
- 薬剤師としての基本をきっちり守りつつ、効率化や顧客サービスなどの企業努力をされており、感心しました。日本での今後のマネジメントに役立てたいと思います。そのためにも自店の強みを改めて考えていきたいと思いました。



- ウィンドウのクリスマスの飾り付けは一見派手に見えるが、色彩や全体のバランスが綺麗でつい足を止めてみたくなります。一つひとつ丁寧に清潔感がありました。
- 患者さんが気軽に足を運べる薬局だと思いました。街の中での薬局の担う役割が確立されており、すべての薬局が住む人にとって必要不可欠な存在になっているのだと感じました。
- ウィンドウディスプレイが印象に残りました。
- 薬は箱でお渡しし半錠粉碎も薬剤師が行わず、患者さんの自己管理、自己責任でということに驚きました。調剤のスムーズさは高まるが、誤服用が増えるのではないかと思います。
- 薬剤師、PTA、PKA が連携して楽しく仕事をしていました。
- ウィンドウディスプレイが凝っていて、訪れるだけで笑顔になれる工夫がされていました。自分の薬局にも生かせたらと思いました。
- ドイツでは、薬は箱出して、半錠や粉碎は患者さんが自己責任で行うというシステムの違いに驚きました。箱出したとミスも少ないように思います。
- いかに愛される薬局になるかに命をかけているなあという印象です。日本と異なり、さまざまシステムチックな部分が多く、薬剤師、PTA、PKA などの役割分担もはっきりしていて驚きました。
- 個々の薬局の差別化や努力を感じました。規制が日本より厳しいとも感じました。その中でできることを考えベストを尽くしていると思いました。



### 2. 視察旅行に参加して感じたこと

- クリスマスマーケットがとても楽しかったです。寒かったですが、それ以上に街が活気にあふれていて、ドイツの文化を楽しみながら買い物できました。
- 通常の旅行ツアーでは回ることのできない薬局や病院、大学、福祉施設に行き、スタッフの方々の話を聞くなど、大変貴重な体験ができました。
- 参加メンバーの若い人たちと接し、自分の欠けている部分に気がつきました。自社の職員がどう考え働いているのかを知りたいと思いました。次回はぜひ職員を参加させて刺激を受けたいと思いました。
- 薬歴はないが、顧客カードなどで処方歴がわかったり、毎回患者さんとしつかりとコミュニケーションをとっているのが、きちんとした体調管理ができているのだと感じました。
- ビールやソーセージなどのドイツの食やクリスマスシーズンの街の雰囲気も素晴らしいです。
- クリスマスマーケットはすごかったです。
- 大変勉強になりました。また自分も参加したいと思いますが、スタッフにも行かせたいと思います。参加者の皆様と仲良くなれ、良いご縁をいただき感謝しています。
- 日本の薬局と全く制度が違って薬剤師の位置づけがしっかりしていると感じました。
- 患者さんの自己責任という考えが根付いているので、日本との違いを大きく感じました。
- ウィンドウディスプレイの素晴らしさも然ることながら、クリスマスマーケットの美しさに心を奪われました。街の見どころを案内していただき、ドイツの良い部分を感じることができました。
- 薬剤師以外の方も参加していたので、異なる視点からの考察を聞くことができ、情報共有することができました。
- 日本の薬剤師は、患者さんのためにという気持ちは強いですが、薬や経営の知識は乏しいと実感しました。

- 複数の薬局を回り、それぞれの薬局の違いやドイツでの薬局の在り方を学べるとても勉強になる視察旅行でした。
- 日本では近くても行かないスケートリンクに行って何年かぶりにスケートを楽しんだり、ドイツの方と腕を組んで歌ったり、参加者の方々と遅くまで語り明かしたり、貴重な時間を過ごさせていただきました。この旅行に参加させていただいて本当に嬉しく思います。
- 薬剤師の立場や薬事行政の根本的な違いをまざまざと見せつけられました。日本が優れているところも、そうでないところも。
- 参加メンバーの他の薬局の若い方々にも接して、今後の薬剤師教育、スタッフ指導に生かせるいくつかの発見ができて良かったです。

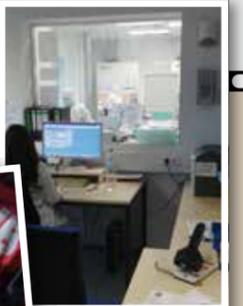


### 3. 日本に帰ってから実践してみたいこと

- 処方箋を持つ人だけでなく、気軽に薬局でできる薬局を今後も目指していきたいと思いました。
- 患者さんに目でも楽しめるような季節ごとのディスプレイを実践してみたいです。
- 薬局がたくさんある中で差別化できるサービス、接客、品揃えを考えていきたいと思っています。
- 処方箋医薬品を調剤するだけでなく、健康面のアドバイスをしっかりと伝えられるようがんばりたいです。
- 顔の見える薬剤師教育を実践してみたいです。そのためにも今回の視察旅行の報告を実践します。
- ディスプレイなどを通じて、幸せを感じられる薬局を作っていきたいです。
- 自店でもクリスマスのディスプレイを実践しようと思います。
- 店舗のデザイン、事務職員や薬剤師の再教育、業務の明確を実践してみたいです。
- 患者さんにとって楽しく快適に過ごしていただけるよう、季節感を出していきたいです。その第一歩として、ウィンドウの飾り付けをしたいと思っています。
- 今は「患者さんの笑顔でスタッフが笑顔に」という部分が多くあるので、「スタッフの笑顔で患者さんを笑顔に」できるよう、薬局に来ることで、スタッフと話すことで、患者さんに笑顔になっていただけるような明るく清潔で楽しい薬局にしたいと思います。

- 薬局の内と外をイベントごとに変えてみようと思います。ディスプレイを魅力的にすることで、堅苦しい薬局ではなく、入りやすい薬局を作っていきたいです。
- クリスマスマーケットで購入したものを、少しでもドイツの薬局のディスプレイに近づけられるようにしたいです。また、患者さんのためにという気持ちを忘れずに接していきたいです。
- かかりつけ薬局として地域の方々に愛されるため、ディスプレイや「プラス1の心」をスタッフと共有し実践したいです。
- ディスプレイや商品提供など、もっと工夫をしたいと思いました。今回の参加報告を店内に掲示しようと思っています。

わたしの1枚



# INFORMATION

## ●これからのアポビッテ

本誌は年2回、3月と9月に発行し、コミュニティファーマシストに必要な知識、技術、マインドを喚起するためのさまざまな連載を予定しています。どうぞお楽しみに!

※タイトルは変更になる場合もあります。

### ドイツの薬局に学ぶ

ドイツの素敵なコミュニティファーマシーを紹介いたします。ドイツの薬局には、街の人々を魅了する工夫がたくさんあります。特に店内やウィンドウディスプレイは日本の薬局でも取り入れたいお手本です。

### この街・この薬局

日本のコミュニティファーマシーとその街を紹介するコーナーです。街が違えば環境も住む人も異なります。地域に根づいたコミュニティファーマシーもその街ごとに特徴があります。近くの街、遠くの街の薬局はどんな取り組みをしているのか、詳しくご紹介します。第1回は茨城県水戸市のフローラ薬局さんを訪ねます。

### 健康レシピ

薬局で販売している健康食品を使った簡単な健康レシピを紹介。二次元バーコードを読み込む

とレシピが確認できるような仕組みを予定しています。薬局に訪れる患者さんやお客さんに楽しんでいただけるページです。

### 欧州のオーガニックな暮らし

ドイツ在住の野中潤一博士にオーガニックコスメ(自然化粧品)に関する化学的講義を誌上でお願いしました。野中博士は、日本ではまだ馴染みの浅いオーガニックコスメ(自然化粧品)の開発に携わった科学者です。街の化学者としての自然観察眼を磨きましょ。

### 魔女まみいのHerb Lesson(ハーブレッスン)

欧州ではハーブ療法やホメオパシーといった自然療法も医師による処方の一つです。ハーブは薬局で品質を管理され、人々は品質のよいハーブを求め薬局を訪れます。薬局から発信されるハーブを用いた生活を紹介します。ドイツの薬剤師が教本としているテキストを参考に各々の

ハーブの薬学知識をご紹介します。

### Interview

#### 海外で活躍する日本人を訪ねて

海外で活躍する日本人を直接訪ね、エネルギーに満ちた生の声を読者の皆さんに届けるコーナーです。ウィーン少年合唱団に憧れてドイツの薬学部に入学生、南ドイツの郊外の街にコミュニティファーマシーを開局した薬剤師、アッセンハイマー慶子氏にご登場いただく予定です。

#### ドイツ薬事博物館便り

ドイツ薬事博物館の公式ガイドをしている中村典子さんに執筆をお願いします。古代から続く医薬の歴史には、ユーモアやメルヘンがたっぷり。きっと皆さんの薬剤師魂をわくわくさせます。本誌を通して、ドイツ薬事博物館巡りをご堪能ください。

#### 読者プレゼント

ドイツには洗練されたデザインの薬局関連グッズがたくさんあります。もちろん、ハーブ類も充実しています。編集部がドイツを視察しながら読者の皆様のために選んだお土産をプレゼントいたします。

## JACPニュース



### JACP 設立記者会見を開催

日本コミュニティファーマシー協会(JACP)は、2014年4月14日、都内にて業界専門誌各社に対し記者会見を開催。代表理事吉岡ゆうこより、地域住民に視点を置き、その日常生活に根ざした“かかりつけ”ではなく“いきつけ”となる「私の薬局」づくりを目指している当協会の設立の経緯と趣旨を説明した。また篠原久仁子理事は、日本におけるコミュニティファーマシーの実践例を紹介。記者からは、活発な質問が寄せられた。

この記者会見の様子は、じほうのwebサイト「マグプラス」、日経D1オンラインニュース、薬局新聞、ドラッグトピックス、薬事日報などで紹介された。

## メディナビは明日の薬局をデザインします!

メディナビはお客様が求めるシステム・モノ作りに積極的にチャレンジしていき、薬剤師・医療機関など関わる全ての方のステップアップをサポートさせていただきます。



### 『missson』 ミスノン WEB型の調剤過誤防止システム

レセコンに入力したデータとハンディ端末でピッキングしたデータを照合し、調剤ミスを防止します。薬品マスタの更新やバージョンアップ・メンテナンスがボタン一つで行えます。



- ポイント1 ピッキングシステム機能
- ポイント2 散薬監査機能
- ポイント3 数量監査機能
- ポイント4 カメラ撮影機能



### エージェントアウトソーシング

薬剤師不足、人材のミスマッチを解消する採用戦略のご提案、人材紹介会社との交渉をメディナビが行います。

### 保険調剤薬局のコンサルテーション

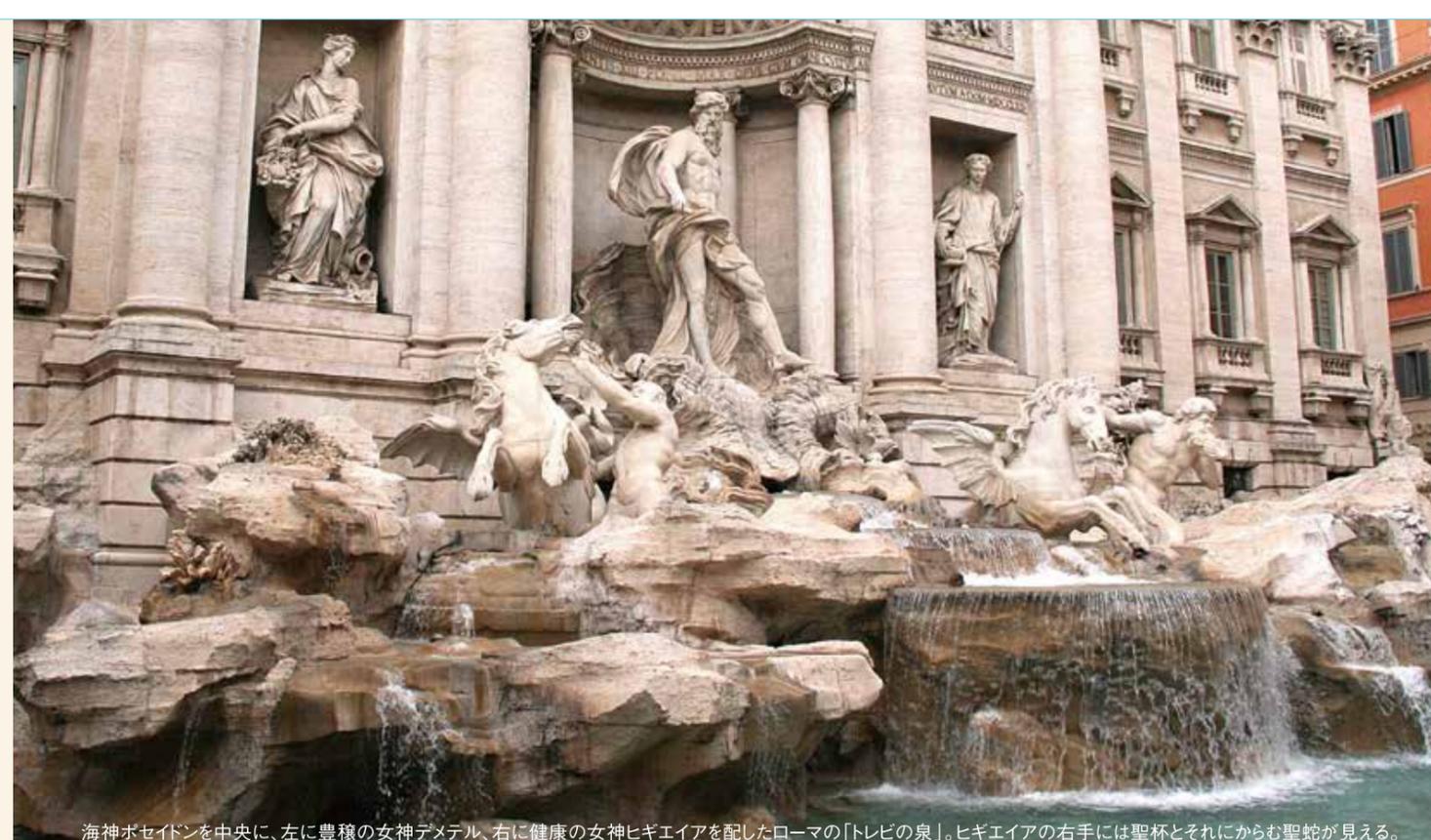
経営改善、業務改善、組織風土・経営管理など企業の成長をサポートします。

- 医薬品、調剤機器、備品の仕入れに関する相談やアウトソーシング
- 薬局M&A、店舗売却や継承
- 薬局独立開業相談



株式会社メディナビ  
http://www.medinavi.co.jp

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-1-8 KDX 新日本橋ビル10F  
TEL: 03-6265-1863 FAX: 03-6265-1985 営業時間 平日9:00~18:00



海神ポセイドンを中央に、左に豊穡の女神デメテル、右に健康の女神ヒギエイアを配したローマの「トレビの泉」。ヒギエイアの右手には聖杯とそれにかからむ聖蛇が見える。



## 医学・薬学のシンボルとして見られる “ヒギエイアの杯”とは?



古代ギリシアの医神・アスクレピオスの長女ヒギエイア。この女神が聖蛇に餌を与えていたという神話から、聖蛇と聖杯を絡ませた“ヒギエイアの杯”という西洋の医学・薬学のシンボルが登場した。

今では薬局の目印としてヨーロッパの街角で普通に見られる。

またヒギエイアを題材にした彫像や絵画では「トレビの泉」やクリムトの「医学」で描かれているように一匹の聖蛇を絡ませた若い女性として表されることが多い……。

\*詳しくは「人と薬の羅針盤 黎明編」本文にて



単行本  
「人と薬の羅針盤 黎明編」  
編著: ネオフィスト研究所 吉岡ゆうこ  
定価: 2,800円(税抜き)  
B5横判 / オールカラー223ページ / じほう発行  
\*お求めはお近くの書店やウェブで

